

スモールステップ設計シート

子どもの実態と支援のゴールを整理するためのシートです。最初に「できそう」と思える入口を作ることを重視します。

項目	記入内容
子どもの名前	
対象となる活動・場面	例：発表、運動会、朝の会、授業参加、給食、登校など
今できていること	
苦手・不安が強いこと	
本人が安心しやすい条件	例：担任が近くにいる、見通しがある、少人数、事前練習があるなど
最終的に目指したい姿	
その子にとって意味のある参加の形	例：全部参加、一部参加、見学参加、短時間参加など
最初に取り組みそうなこと	
少しチャレンジになること	
支援で気をつけること	
振り返り予定日	

スモールステップ段階表

活動を細かく分けて、どこから始めるか考えるための表です。負担が大きすぎない段階から始めます。

段階	取り組む内容	子どもの負担	支援の方法	達成の目安	結果・メモ
1		低・中・高			
2		低・中・高			
3		低・中・高			
4		低・中・高			
5		低・中・高			
6		低・中・高			

記入例：発表場面

段階	取り組む内容	子どもの負担	支援の方法	達成の目安	結果・メモ
1	発表内容を担任と一緒に確認する	低	個別に確認する	内容を確認できる	
2	担任と一対一で読む練習をする	低～中	静かな場所で練習する	最後まで読める	
3	少人数の友達の前で練習する	中	安心できる友達を選ぶ	短く発表できる	
4	交流学級で一文だけ発表する	中～高	担任が近くにいる	一文言えたら達成	
5	交流学級で用意した内容を発表する	高	事前練習をして本番へ	最後まで発表できる	

発表支援スモールステップ表

人前で話すことに不安がある子どもへの支援表です。「発表する・しない」の二択にしないことが大切です。

ステップ	内容	支援のポイント	できたらチェック
1	発表内容を担任と一緒に考える	まずは内容を一緒に整理する	☐
2	発表内容を紙に書く・読む順番を確認する	見通しを持てるようにする	☐
3	担任と一対一で読む練習をする	安心できる場で練習する	☐
4	録音・録画で発表してみる	人前が難しい場合の代替手段にする	☐
5	仲のよい友達一人に聞いてもらう	聞き手を少なくする	☐
6	少人数の前で発表する	安心できるメンバーから始める	☐
7	交流学級で一文だけ発表する	発表量を少なくする	☐
8	交流学級で最後まで発表する	必要に応じて担任が近くにいる	☐

振り返り欄

日付	できたこと	不安が強かったこと	次に試すこと

行事参加スモールステップ表

運動会・発表会・校外学習などへの参加を支えるための表です。全部参加だけを正解にしないことが大切です。

ステップ	内容	支援のポイント	できたらチェック
1	行事の内容を教室で確認する	写真・図・予定表を使う	☐
2	活動場所を事前に確認する	実際の場所を見て安心につなげる	☐
3	流れを図やカードで確認する	何をするか見通しを持たせる	☐
4	見学だけ参加する	「その場に行けた」を認める	☐
5	短い時間だけ練習に参加する	参加時間を限定する	☐
6	できそうな部分だけ参加する	入場だけ、整列だけ、説明だけでもよい	☐
7	クールダウンを取りながら参加する	休憩場所や戻る方法を決めておく	☐
8	本番に一部参加する	その子に合った参加の形を認める	☐
9	本番にできる範囲で参加する	全部参加だけを正解にしない	☐

事前確認欄

確認すること	内容
不安に感じていること	
事前に見せておくもの	例：写真、図、予定表、動画、場所
クールダウン場所	
付き添う大人	
参加を短くする場合の方法	
参加できなかった場合の代替案	

授業参加スモールステップ表

授業に入りにくい子どもへの支援表です。最初は成功しやすい活動を置き、着手できたことを認めます。

ステップ	内容	支援のポイント	できたらチェック
1	席に着く	まずは座れたことを認める	☐
2	教科書・ノートを出す	始める準備を小さな目標にする	☐
3	最初の説明を聞く	短時間で区切る	☐
4	すぐにできる課題に取り組む	成功しやすい活動を最初に置く	☐
5	5分間取り組む	量ではなく時間で評価する	☐
6	一問だけ解く	取り組み始めたことを認める	☐
7	担任と一緒に取り組む	一人で難しい場合は伴走する	☐
8	自分で続きに取り組む	自立につなげる	☐
9	振り返りをする	できたことを確認する	☐

達成基準の調整例

子どもの様子	調整するポイント	例
記録が下がると落ち込む	速さ・量で評価しすぎない	「5分間取り組めた」を目標にする
完璧にできないと嫌がる	完成度より着手を認める	「一問始められた」を評価する
途中で不安が強くなる	休憩や確認を入れる	「3分取り組んだら先生と確認」
簡単すぎると飽きる	少しだけチャレンジを入れる	「最後の一問だけ少し難しくする」

できたこと見える化シート

子どもが自分の頑張りに気づくためのシートです。結果だけでなく、取り組んだ過程も記録します。

日付	今日できたこと	がんばったこと	先生から一言

週の振り返り

項目	記入欄
今週できるようになったこと	
前よりよかったこと	
がんばっていた場面	
来週も続けたいこと	
次に少しチャレンジすること	

教師用スモールステップ見立てチェックリスト

支援を組む前に確認するチェックリストです。苦手なことだけを取り出していないかを確認します。

チェック項目	確認
今できていることを確認した	☐
苦手なことだけを取り出していない	☐
最初のハードルを十分に下げた	☐
子どもが「これならできそう」と思える入口になっている	☐
できることが一つ以上入っている	☐
少しチャレンジになる活動が入っている	☐
必要に応じて戻れる段階を用意している	☐
クールダウンや休憩の方法を決めている	☐
達成の基準が大きすぎない	☐
簡単すぎて意欲を下げる設定になっていない	☐
できたことを見える化する方法がある	☐
保護者や同僚に共有できる形で記録している	☐

保護者共有用ミニ記録シート

家庭に良い形で成長を伝えるための記録です。「できたこと」と「次に目指すこと」を簡潔に共有します。

日付	場面	できたこと・頑張ったこと	次に目指すこと

共有文例

今日は、〇〇の場面で□□まで取り組むことができました。最初は少し不安そうな様子もありましたが、の支援があると落ち着いて参加できました。今後は、無理のない範囲で□□の次の段階にも少しずつ取り組んでいきたいと思います。

スモールステップ支援の振り返りシート

支援がうまくいっているかを確認するためのシートです。次に進むか、一つ前に戻すかを判断します。

項目	記入欄
今回取り組んだ活動	
設定した最初のステップ	
子どもが実際にできたこと	
不安・負担が大きかったところ	
支援として効果があったこと	
合わなかった支援	
次回も続けること	
次回変えること	
一つ前に戻す必要があるか	あり・なし
次に進めそうか	進めそう・まだ様子を見る

スモールステップ作成メモ

活動を分ける時の視点を整理したメモです。時間・場所・人数・活動量・支援量などで細かく分けます。

観点	分け方の例
時間	1分だけ、5分だけ、前半だけ、説明だけ、最後だけ
場所	教室、廊下、体育館の入口、活動場所、全体の場
人数	担任と一対一、友達一人、少人数、学級全体、学年全体
活動量	一問だけ、一文だけ、一部分だけ、見るだけ、聞くだけ
参加の深さ	見学、準備だけ、練習だけ、一部参加、全体参加
支援の量	一緒にやる、近くで見守る、声をかける、自分でやる
見通し	写真、図、予定表、実物確認、リハーサル
休憩	クールダウン、途中退室、短時間参加、戻る場所の確認

使い方のメモ

最初から大きな課題を与えるのではなく、まずは「できそう」と思える入口を作ります。一度できたことでも、調子が悪い日は一つ前の段階に戻して構いません。